

『別々』 作：ポチ子

幸せと不幸は別々の場所にある。

隣の人が幸せなせいで、

私が不幸になることはないし、

私が今不幸せなのは、

隣の人が幸せそうにしているからではない。

だから、憎んだって仕方がない。

その子の幸せと私の不幸は関係がないから。

なのにどこかで、

失敗すればいいのにとか、

別れてしまえばいいのにか、

相手の不幸を期待している自分がいる。

スマホの前で、

その子のアイコンが真っ黒になる日が来ないか、

待ちわびている瞬間がある。

例えば本当に、

失敗したとして、

別れたとして、

私の不幸せは消えてくれない。

私は多分、

『別々』 作：ポチ子

奪われたわけでもない幸せを、

取り返そうと必死になっているだけだ。

— 終わり —